

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

平成 22 年度病害虫発生予察注意報第 1 号を発表したので送付します。

平成 22 年度病害虫発生予察注意報第 1 号

- 1 害 虫 名 : ナスミバエ
- 2 作 物 名 : ナス科植物
トウガラシ類、ナス、トマト、ピーマン等
- 3 発 生 地 域 : 沖縄本島 (与那国島)

4 注意報発表の根拠

本種は日本では昭和 59 年に沖縄県与那国島で初めて発見され、現在まん延防止対策を行っている。沖縄本島では今回初めて発生が確認された。

発生確認の経緯は、以下のとおりである。

平成 22 年 11 月 18 日の本島中部におけるミカンコミバエ臨時果実調査で、ハウス外に放置された収穫残渣のナスからミバエ類の蛹 4 頭と幼虫 2 頭が発見された。

12 月 13 日に蛹が羽化、沖縄県農業研究センター及び農林水産省那覇植物防疫事務所によりナスミバエと確認された。

ナスミバエ確認に伴い、12 月 24 日までに沖縄本島、宮古島、石垣島で調査を実施したところ、沖縄本島では中部地域を中心に各地でトウガラシ類、テリミノイヌホオズキ(図 5)への寄生が確認された。宮古島、石垣島では現在のところ発生の確認はない。

5 本種の特徴

形態:成虫は体長約 7mm でミカンコミバエに似るが翅の先端に黒点があり、腹部全体が茶色がかっている(図 1)。幼虫は体長 7 ~ 9mm で乳白色・黄白色である(図 2)。

分布:東南アジア、台湾、中国、インド、ハワイ等

生態:年間世代数はおよそ 7 世代である。雌成虫は果実内部に産卵管を挿入し産卵する。幼虫は果実内部を食害する。老熟幼虫は果実から脱出後、地中で蛹化する。ミカンコミバエ種群やウリミバエと比較して増殖能力は低いとされている。

被害:幼虫に寄生された果実は食害により腐敗する。シマトウガラシでは果実が水浸状化する(図 3、4)。

6 防除対策

ナス科野菜(ナス、トマト、ピーマン等)栽培施設の出入口は 2 重カーテンを設置し、完全に閉じておく。ビニール、ネットの破れ等破損部分は直ちに修理する。

防虫ネットは目合い 1.6mm 以下を使用する。

露地栽培では防虫ネット(1.6mm 以下)で被覆するか、果実に袋がけをする。

落下果実や果実残渣はビニール袋に 1 か月ほど密封するか、焼却する。

栽培終了後の株は放置せずに抜き取り、すみやかに処分する。

施設周辺および圃場内外の野生寄主植物(テリミノイヌホオズキ等)は除去する。



図1.成虫



図2.シマトウガラシに寄生した幼虫



図3.シマトウガラシ寄生果実(未熟果)



図4.シマトウガラシ寄生果実(熟果)



図5.テリミノイヌホオズキ寄生果実

詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい

TEL : 098-886-3880, 098-886-0227

ホームページアドレス : <http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>